

私たちの心と身体のシステムがストレス下にある時には、最後に得られた安定している動作パターンにまで戻ってしまう傾向があります。もしも、ひとつ前段階での発達上のパターンが完全に統合されていない場合には、土台が脆いものになってしまいます。これが、どのような能力レベルにある大人や子どもと接する場合でも、反射と発達上の動きのパターンを教えたり、再度繰り返す理由なのです。身体は発達段階までさか上ってパターンを学び、また学び直す能力を持っています。脳は柔軟性に富み、受容性と順応性があります。ないがしろにされたり間違えて学んだり、ダメージを受けた神経でさえ組み直しできるのです。大抵の場合、このことがより高いレベルの機能に転換します。これらの考え方を支持する情報は、Peggy Hackneyの「Making Connections: Total Body Integration Through the Bartneieff Fundamentals」という本で紹介されています。

身体は発達段階をおさらいし、パターンを学び、また学び直す能力を持っています。

発達上の動きのパターン

動きの構成要素と理解

コントララテラル

全ての前段階のパターンの統合
意図する力を得る

ホモラテラル

身体の左右を識別する
可動性を得る

ホモロゴス

上半身と下半身を識別する
行動力を得る

脊椎の動き

身体の前後を識別する
参加する能力を得る

へそ放射

違いとつながりを知る

口(Mouthing)

手足を伸ばし、握り、保持し、そして放す

呼吸

物理的存在の最も単純な基盤